

# 社会科学習指導案

日時	平成24年10月10日(水) 4校時
会場	3年B組教室(校舎2階)
生徒	3年B組(男10名、女子13名、計23名)
授業者	大道篤史

- 1 単元名 3 地方自治と住民の参加  
教材名 「地方自治のしくみ ～地方公共団体の仕事と財政～」

## 2 単元について

### (1) 教材観

- ・本単元は、学習指導要領 公民的分野 の内容(2)私たちと経済 イ「国民の生活と政府の役割」、(3)私たちと政治 イ「民主政治と政治参加」の2つの領域を取り扱っている単元である。本単元では住民自治を基本とする地方自治の考え方について、地方公共団体の政治のしくみや働きを通して理解させることをねらいとしている。
- ・身近な地域の政治や住民の政治参加など具体的な事例や制度を取り上げ、「地方自治」が「民主主義の学校」とよばれている理由や、「まちづくり」の重要性に気づかせたい。地域の特色ある政治や住民の政治参加、地域づくりのあり方について「地域住民」の立場から積極的に参加していこうとする態度を育てようとするものである。その際に財政などの面で課題を抱えている地方自治体の実態にも触れ、今後の自治体の方向性についても深く考える機会としたい。
- ・現代日本の政治の動きを多面的・多角的にとらえる活動を通し、「将来の主権者」「地域住民」であることを自覚させ、進んで政治に関わっていこうとする態度を育てるものである。

### (2) 生徒観

- ・生徒の多くは社会的事象から物事の本質や意義をとらえること、具体的な事例をあげて考えること、複数の資料と関連付けて事象を考察すること、を苦手としている生徒が多い<(H23年度学習定着度状況調査「社会的な思考・判断」県40.4%、本校31.1%) (本校生徒アンケート3学年「根拠を説明できる」50%)>
- ・日常のニュースや新聞に目を通してしている生徒は多くなく、特に政治分野を苦手としている生徒は多い。また自治体の組織や財政面などに関する知識もほとんどの生徒が持っていない。より身近な題材を提示するとともに、意外性のある資料や視覚的資料を用いて、興味・関心を引き付けたい。

### (3) 指導観

- ・全体の流れとして最初に地方自治体が果たしている仕事(役割)、地方の政治についての基礎基本となる政治のしくみや内容、語句の意味などを確認し、次に地方自治の重要性、問題点を考えさせ、最後にそれらを踏まえて自分たちの住む町についてどうかかわっていけばいいのか考えさせたい。
- ・地方の政治のしくみ、内容については、首長が直接選挙で決められること、住民による条例の制定の請求、解職・解散などの直接請求権があることなど、国の政治との比較から違いを焦点化し、地方自治の考え方やその意義をとらえさせたい。
- ・地方公共団体が政治をしていくうえで必要な財源について、歳出・歳入を比較し、圧倒的に依存財源が多いことに気付かせ、将来どのようにして財源確保を図っていくかについて意見交流をさせ、考えを深めさせたい。そしてより良いまちづくりのためにどんなことが大切か多面的・多角的に捉えさせ、「将来の主権者」「地域住民」としての意識を持たせたい。

### (4) 研究とのかかわり

- ・本時ゴールを明確にする課題設定<導入>  
本時の授業は地方財政の歳出と歳入の内訳から課題を明らかにすることを説明し、その課題を解消する方策について意見を交流し、まとめることを伝える。
- ・言語活動を充実させた活動による課題解決<展開>  
地方財政の課題を解消するための方策について、意見を交流しあい、自分の考えを述べるができる、という課題に取り組みせる。

・ 集団の学びを個に返すまとめと評価<終末>

地方財政の課題について「自主財源」と「依存財源」の語句を用いて説明させる。

### 3 指導と評価の計画

3 年 社会		単元名 3 地方自治と住民の参加		総時間 6時間扱い	
単元目標					
○地方自治の基本的な考え方や、政治のしくみを理解する。					
○住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることができる。					
社会的な事象への関心・意欲・態度		社会的な思考・判断・表現		資料活用の技能	
社会的な事象についての知識・理解					
①地方公共団体で実際に行われている政治に対する関心を高め、意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとする。 ②身近な暮らしと政治との関わりについて興味をもち、自分にもできることは何かを意欲的に考えようとする。		①地方公共団体が果たしている役割や地方財政のあり方について、地方公共団体の経済活動に関わるさまざまな事象から課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。		①地方公共団体の政治に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	
①地方自治は、住民参加による住民自治が基本であることを理解し、その知識を身につけている。 ②地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていることを理解し、その知識を身につけている。					
時間	主な学習活動 ／評価規準	社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
1	1. 身近な地域の政治	自分が住む地域の政治に関心をもち、地域の現状を見つめ直そうとしている。【観察】	地方自治が抱える課題について、多面的・多角的に考察している。【レポート】		地方自治の意義や地方分権の動きについて、正しく理解している。【プリント】
2	2. 地方自治のしくみ (1) (地方公共団体の仕事としくみ)	地方公共団体の仕事について、興味や関心をもって調べようとしている。【観察】			地方公共団体のしくみや仕事について正しく理解している。【テスト】
3	2. 地方自治のしくみ (2) (地方公共団体の財政のしくみ) 【本時2/2】		地方財政の課題を解消するための方策について自分の考えを述べることができる 【プリント、発表】		地方公共団体の財政のしくみを正しく理解している。 【プリント】
4	3. 住民自治が地域をつくる		地方の政治に直接民主制のしくみが多く取り入れられている理由について、多面的・多角的に考察している。【プリント】		直接請求権や住民投票などの住民の権利について、正しく理解している。【プリント】
5	4. 地域の自立を旨として		市町村合併の長所と短所について、多面的・多角的に考察し、自分の考えを発表している。【観察・プリント】	市町村合併や開かれた地域づくりについて、その意義や課題を具体的にもとめている。【プリント】	
6	5. 地域で安心して暮らすために	活力ある地域をつくるために、自分たちにできることは何かを考えようとしている。【レポート】	これからの地域社会の発展に向けて自分たちにもできることを考え、自分の言葉で発表している。【観察】		

### 4 本時の目標

- ・ 地方財政の課題を解消するための方策について自分の考えを述べるができる。【思考・判断・表現】
- ・ 地方公共団体の財政のしくみを正しく理解している。【知識・理解】

## 5 本時の指導口 (3/6時)

階	学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
	<b>【既習の学習】</b> ・小学校では6学年で地域の予算のしくみや、税金を集めることで市の運営がされていることについて学習している。 ・租税教室で主な税金の種類や国債に頼った国家財政であり、多額の借金を抱えていることについて学習している。 <b>【前時の学習】</b> ・地方公共団体は住民の生活に欠かせない役割を果たしており、そのしくみは首長を中心として組織されている。			
導入	1 前時の活動をふり返る 2 本時の題材に対する関心を持つ 3 本時の課題を把握する。【ゴールを明確にした課題設定】	<b>●前時の授業の既習事項を確認する。</b> <b>●今年度の二戸市の歳出額から税収額を予想する。</b> ・歳出額に対して圧倒的に税収不足であることを実感する。	・自治体が果たしている仕事について前時で学習したことを確認させる。 ・二戸市の歳出額、歳入の主体となる税収額について予想させ、大きな差について気づかせたい。またその矛盾の驚きを学習課題設定に結び付けたい。	
8分	二戸市は税収以外にどのようにして収入を得ているのだろうか。また二戸市の財政を立て直す方法を考えよう。			
展開	4 予想をする。(個人) 5 課題を追究する 6 グループで話し合う(個人→グループ)【言語活動】 7 全体で話し合う(全体)	<b>●課題に対し、予想を発言する。</b> ・借金をしている。 ・援助してもらっている。 <b>●「二戸市今年度予算」グラフを活用し、課題について調べる。</b> ・「歳入内訳」から自主財源が少なく、依存財源の割合が多いことに気付く。 <b>●二戸市の予算額の推移のグラフを見て、地方財政の抱える課題を読み取る。</b> ・国庫支出金の減少の影響、借金の増加の影響を考える。 <b>●課題について確認する。</b> <b>●二戸市の自主財源の割合を増やしていくために進めていきたいことは何か、グループで意見交流しながら考える。</b> ・グループごとに話し合った結果を全体場で発表する。  ・二戸市役所財政課職員のインタビュー動画を見て、市の考えを知る。	・歳出と歳入の財政に関する円グラフから、自主財源と依存財源の割合の差を実感させる。 ・分かりにくい語句の意味を確認する。(地方交付税交付金、国庫支出金については軽く触れる程度) ・国庫支出金と二戸市の借金額の推移のグラフを見て、課題について考えさせる。 ・他の市町村の歳入内訳のグラフや二戸市役所財政課の資料を提示し、「課題」について考えるヒントとさせたい。 ・パワーポイントのグラフを活用しながら、自主財源の割合を増やすための方法を生徒から出させたい。 ・自主財源の割合増のための方策として選択肢を設け、その中から「優先的に進めていきたい順位」という視点で考えさせる。	地方財政の課題を解消するための方策について自分の考えを述べるができる  A複数の視点から方策をあげ、具体的に説明ができています。
終末	8 自分の考えを再構築する。 【個に返す活動】 9 学習をふり返る。 10 次時の見通しを持つ	○学習を通して、地方財政の課題とその対策についてまとめる。 ○「まとめ」を発表する。 ○次時は「住民に与えられている権利」について学習することを知る。	・「自主財源」と「依存財源」の語句を活用し、地方財政の課題についてまとめを書くよう指導する。対策については、意見交流を踏まえて考えるよう指導する。	地方公共団体の財政のしくみを正しく理解している。  A2つの語句に加え、歳入のグラフに活用されている語句を活用し、説明できる。
7分	<b>【次時や別単元での学習】</b> ・直接請求権や住民投票などの住民の権利の中で、予算が正しく使われていることを監査する権利を持っている。 ・地方財政の課題を解消するために市町村合併が行われる等、各地で様々なまちおこしが行われていることを学習する。			